



進学事典

『進学事典』をヒントに 志望校を絞る選択軸を考える

— 岐阜・私立 大垣日本大学高校 —

取材・文／太田知子



左から
進路指導部主任
鈴木博告先生
学校長
古田健二先生
3学年主任
只腰啓介先生

School Data

生徒数／709人(男子343人・女子366人) 普通科22学級
進路状況(2011年度)／大学・短大進学67.1%、専大進学23.1%、
就職7.6%、その他2.2%
岐阜県大垣市林町6-5
TEL 0584-81-7323
URL <http://www.ogaki.ac.jp/>

■ 活用解説会「自分に合った 進学先の選び方」の概要

- 社会に出て必要な力
→ 専門知識、語学力のほかにもさまざまな力が求められる
- 進学先での力のつけ方
→ 大きな教室での講義だけではなく、いろいろな学び方がある
→ 自分から進んで学ぶ姿勢が大切
- 進学先選びの現実
→ 進学後、学校や学部・学科を変えたいと思う学生は多く、中退者も数多い
- 自分が納得いく進学先の選び方
→ 同じ学部・学科名の複数の学校を比べると自分に合う学校のイメージがわく
→ 資料を取り寄せて調べるとよい

■ 授業を受けた生徒の感想

- 自分の将来を考えて目指す大学を調べること、同じ分野ならば大学ごとの微妙な違いを見つめて判断することが非常に大切であるということが印象的でした。
- 講演した方の実体験が胸を打った。
- 『進学事典』にいろいろな大学の細かい部分まで書かれていて見やすかった。
- 大学入学者の3割が大学・学部・学科選びを後悔しているという調査結果を聞いて、大学選びを慎重にすることが大切だと思った。
- 大学も就職までの通過点でしかないことが改めてよくわかった。
- 学校のパンフレットはたくさんあったほうがどんな学校かわかるのもっと取り寄せたほうがいいと思った。
- 改めて考えてみると、大学選びは迷うことだらけだとわかった。自分が何をしたいかはっきりさせてから、また真剣に考えていきたい。
- もっと学校を調べようと思った。

「お話ししてくれたリクルートの社員の方の熱意あふれる話しぶりに、多くの生徒が引き込まれ、集中して話を聞いていました。解説会のインパクトと、その後すぐに行った作業のインパクトで、具体的に志望校選びを進める生徒の数が想像以上に増えたと思います」と只腰先生。

大垣日本大学高校は全国に25校ある日本大学附属高校の一つ。毎年50名以上が日本大学に進学するが、進路は多様だ。「創立50周年を迎えた今年は、校訓である『誠実・努力・親和』の精神を教員が体現して生徒に示し、学校全体の活性化を目指しています」と学校長の古田健二先生は言う。

同じ学部・学科名でも学校ごとに学べる内容が違うことに気づく

同校の一番大きな進路行事といえば、2、3学年の全員を対象に毎年6月に実施する学校見学会だ。志望分野別に10グループに分かれ、近隣の学校を見学する。「見学後に、学校独自のワークシートに見学内容や学校情報をまとめ、それをもとに志望校を考え始める生徒が多いです」という3学年主任の只腰啓介先生。

2年前から進学希望の2学年全員を対象に、「自分に合う進学先の選び方」をテーマにした『進学事典』の活用解説会とワークを実施するようになった。「勉強へ

の苦手意識から、安易にAO・推薦入試に入れる学校を選ぶ生徒がいます。そうではなく、自分が何をどう学びたいのかを軸に志望校を選んでほしい。その選択力がつくことを期待して、昨年度も同様の取り組みを行いました」と只腰先生。

活用解説会は『進学事典』の使用に併せてリクルートの社員が行う。今年は、大学や専門学校の中退者が毎年11万人以上に達していることや、自分に合う学校選びの方法などについて話を聞いた。「将来のビジョンをもとに学校を選ばないと、高い学費も無駄になる、というシビアな話は、今真剣に考える必要性に気づく大きなきっかけになりました」と語る進路指導部主任の鈴木博告先生。

活用解説会終了後、すぐに『進学事典』を使ったワークに取り組んだ。生徒は同じ学部・学科名の学校をいくつか選び、学びの特色などを比較し、自分に合う学校の選択軸について考えを深めた。

「この時期、志望分野は決まっていますが、『本当にそれでもいいのか』『何を基準に学校を選べばいいのか』と悩み、志望校選び

を進められない生徒が多くいます。今回の取り組みで、そうした悩みを整理して、具体的な検討を始められた生徒は多かったと思います」と只腰先生。

例年より多くの生徒が自主的に学校見学に参加

取り組み終了後、生徒の変化はいろいろなところで見られた。例えば日本大学の「商学部経営学科」と「経済学部経済学科」の違いを真剣に調べる生徒や、アルバイトで服の販売職に就くことを志望していたものの、専門性を身につける必要性に気づきデザインや経営を学ぶために進学志望に変更した生徒もいた。

「3学年に進学してからも、学校見学に行く生徒の数が例年より多かったです。それだけ真剣に学校選びをしている証拠です」と只腰先生。「志望校選びの進路学習が2学年の2月では遅いという意見もあるかもしれませんが、危機感を感じて動き出すには、よいタイミングでした」と鈴木先生も効果を実感している。

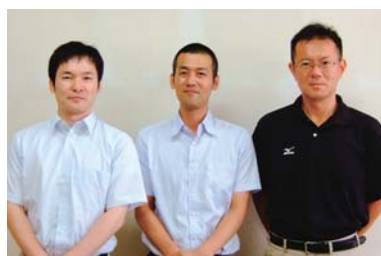


進学事典

志望理由書作成に『進学事典』を活用 本気で進路を考える好機に

— 鳥取・県立 鳥取中央育英高校 —

取材・文／太田知子



左から
3学年主任
板持俊博先生
進路指導主事
前田幸男先生
進路指導部
米村親直先生

School Data

生徒数／460人(男子244人・女子216人) 普通科12学級
進路状況(2011年度)／大学・短大進学41.4%、専各進学42.0%、
就職10.2%、その他6.4%
鳥取県東伯郡北栄町由良宿291-1
TEL 0858-37-3211
URL <http://www.torikyo.ed.jp/ikuei-h/>

志望理由書作成までの流れ

(2012年2学年全員を対象にSTの時間に実施)

1回目	1月18日 ～19日 (各クラス)	適性検査 (『進学事典』の付録) 『進学事典』を使って志望校 の資料請求 (国公立大学志望者は別途テレ メールにて資料請求) ※希望者は2月7日の進学相談 会に参加しパンフレットを集める
2回目	2月23日 (2時間)	志望理由書のヒントを探そう →志望理由書を書く意義の説明、 適性検査結果返却 →『進学事典』のワークシートの ステップ1、2を完成 ※時間があればステップ3を埋 める
3回目	3月2日 (2時間)	志望理由書のワークシート →『進学事典』のワークシート ステップ3を完成 →志望理由書練習ワークシート (下図)を記入
4回目	3月8日 (2時間)	志望理由書の作成
	3月上旬	進路志望調査 (第一志望校の仮決定)
	3月14日	志望理由書全員提出

「進路学習は1、2時間の単発のものでは、効果は一過性の
もので終わってしまいがち。今回の取り組みはストーリー
性、連続性を持たせることにこだわりました」という前田先
生。「3学年の6月にもう一度志望理由書を書くとき、今回
学んだことを生かす」という次の目標設定が明確だったの
も、生徒が継続して主体的に動く原動力になった。

志望理由書練習ワークシート (一部抜粋)

ダウンロード可

「なぜ志望分野・職種を選んだのか」「その分野・仕事では
どんな能力が必要か」「その分野・仕事で、将来どんな仕
事がしたいか」など9つの質問に答えるもの。「進学事典」
や請求した大学・専門学校のパンフレットを参考にしなが
ら作業する生徒が多かった。

鳥取中央育英高校の生徒の進路は、大
学、専門学校、就職など幅広い。進学志望
者でも「いかに少ない労力で目的を達成す
るか」と考える「省エネタイプ」の生徒が多
いことが課題だという。「生徒にもっと可能
性があることを伝え、主体的に進路を考え
る力をつけさせたいと思っています」という
進路指導主事の前田幸男先生。

**総合学習の大幅な変革に伴い
志望理由書作成を早期化**

同校では「総合的な学習の時間」を「サ
クセスタイム(以下ST)」と称してさまざ
まな取り組みを行ってきた。これまでは学
力向上を目的としたものが多かったが、昨
年度、進路指導主事になった前田先生は
「この時間を利用してもっと進路への意欲
を高めたい」と考え、「ST」を大幅に見直
した。例えば1学年では、5月に鳥取大学
を見学、10月に企業訪問を行うなどして、
進路を身近に考える。2学年では社会問題
への探究活動や大学見学、卒業生の講演を

行い、主体的に志望校を選ぶ力をつける。
2学年の3学期は、昨年度から「進学事
典」を利用した、志望理由書作成の取り組
みをスタートした。「従来は3学年の6月に
書き始めていました。わが校ではAO・推薦
入試の利用者も多いので、それでは遅いと
感じていました」というのは、昨年2学年を
担任した米村親直先生。

**書けなかったショックをバネに
多くの生徒が本気モードに突入**

取り組みは全4回。まず『進学事典』につ
いてくる、自分に合う学びの分野や勉強
法、向いている仕事かわかる適性検査を行
い、気になる学校のパンフレットを請求。2
回目には志望理由書を書く意義、書き方
などの講義を行った。3回目で学校独自の
ワークシート(下図)を使って志望理由書
作成に必要な情報を整理し、4回目で志
望理由書を書いた。(詳細は上図)。「ワー
クシートは、志望理由や自分の適性や将来
展望について情報を整理できるように作り

ました」という3学年主任の板持俊博先
生。米村先生は「やりたいことがあっても書
けない生徒はいます。お手本を見せたり、な
ぜこの学校を選ぶのかという物語が大事だ
と話したりしました。説得力のあるストー
リーにするには学校を実際に見学したり調
べるのが一番です」という。

志望理由書を書くのは初めてという生
徒がほとんど。「2、3行しか書けない」
「書いても半分くらい分量を埋めるのが
精いっぱい」という生徒が多かった。「まった
く書けなかったことで「今のままではダメ
だ。進学先で、なぜ、何を学ぶかが大事な
んだ」と気づくことができた生徒は、春休
み以降、志望理由を深く考えて書くよう
になりました」と米村先生。

3学年の6月に再度志望理由書を書い
たとき、まったく書けない生徒はいなくな
った。8割以上の生徒が最後まで埋め
る分量を書けるようになっていた。3学年
の7月の三者面談でも志望校が決められ
ない生徒はほぼいなかった。これは例年には
ない大きな成果だった。